

【プロジェクト概要】

現在の酪農は、生産性向上のために大規模化し、牛の改良を重ねて、乳量を確保するために配合飼料を与えることが主流となっています。

しかし、ウクライナ情勢等に伴う穀物価格の上昇によって、配合飼料価格が上昇しており、多くを海外からの輸入に依存する日本の酪農経営は圧迫され、離農を決断する農家が増えている中、輸入飼料に頼らない持続可能な酪農経営として、「山地酪農」が注目されています。

山地酪農は、現代酪農とは違い生産性を重要視せずに、牛たちがストレスなく幸せに過ごしながらか寿命を全うできることを目指し、その中で牛たちから無理のない範囲で乳をわけてもらいます。そのため、山地酪農の牧場には、牛舎がなく搾乳のための

小屋だけがあり、牛たちは広い山に一年中昼も夜も放牧されることになります。放牧された牛たちは、食事・睡眠・排泄や交配・分娩・哺育など本来の行動をすることで、ストレスとは無縁の生活を送ります。ストレスがなく健康な牛だから、美味しく健やかな牛乳となるのです。

また、放牧された牛たちは野山を自由に歩き回り、地面を踏み固め、下草をはみます。そこには強い芝生が生え、大雨や台風でも土砂崩れを起こしにくい山ができるという好循環を生み出す酪農が山地酪農です。

放牧酪農による農地の維持・再生と、山地酪農による動物の快適性を一緒に求めていきましょう。

**【パートナー】**

○東禅寺牧野農業協同組合

昭和 29 年1月に設立された法人で、牧野農業協同組合として大洞牧場を管理しています。

【求める人物】

- ・農家として、山地酪農に取り組める方
- ・山地酪農や地域活動等を通じて、農産物や民話のふるさと遠野を情報発信できる方
- ・田舎暮らしを楽しめる方

【ミッション / ロードマップ】

- 1年目：山地酪農の基礎知識の習得及び放牧準備
- 2年目：1年目に引き続き放牧準備と牛の世話や開牧作業
- 3年目：搾乳や山の整備及び山地酪農の魅力を伝える活動